



中殿御會之圖

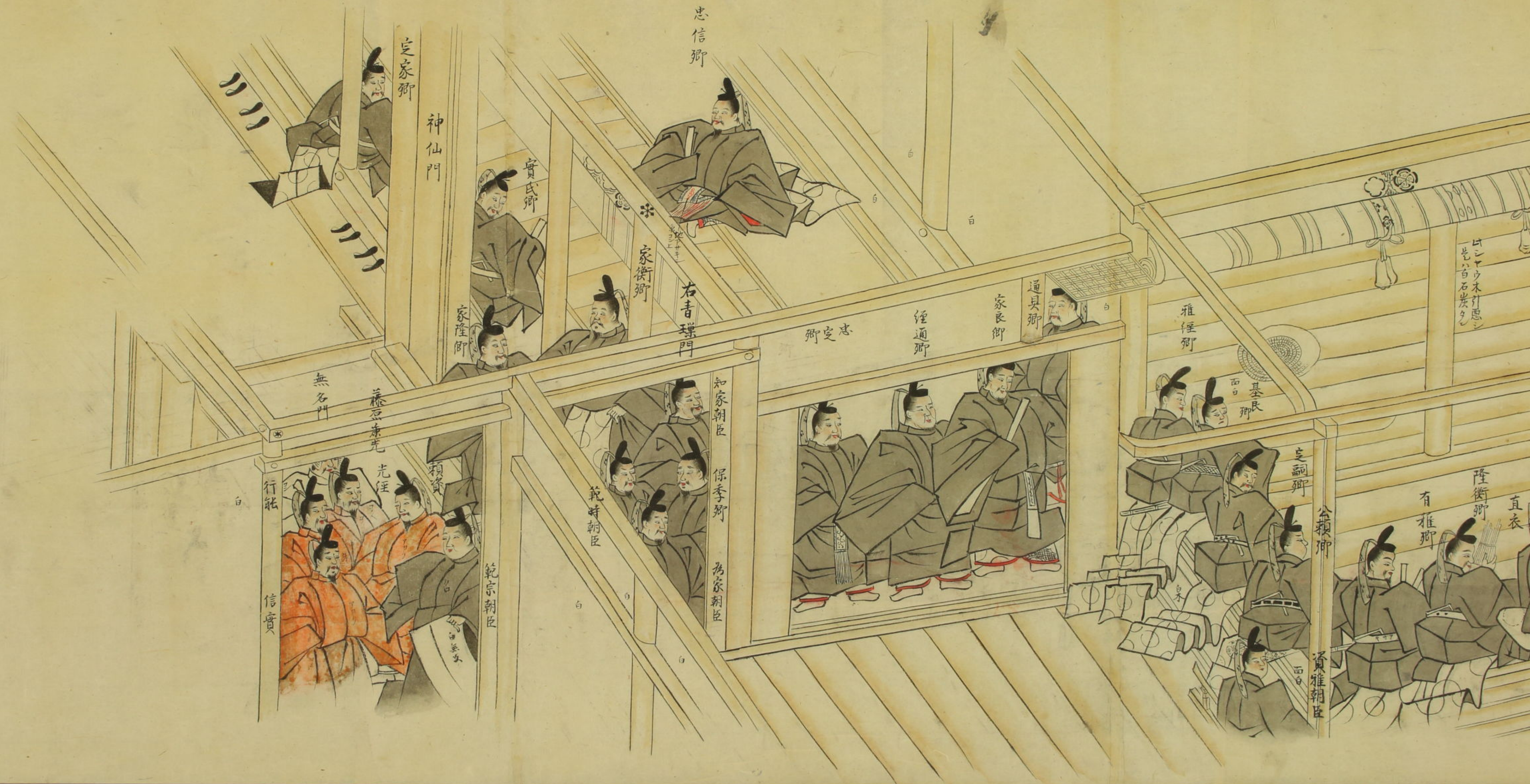
中殿御會圖

清涼殿





右任吉画所  
有之如廣法眼廣通馬也





右任吉画所有之如履法眼廣通馬也

建保六年八月十三日壬子

於中殿講和齋題云池月久明成時

出清直河直河 御製恒願中將公雅朝臣石公卿

孫顯南弟三同以 先後有河遊冷人等奉者右大臣右近大將源

朝臣隆生 右大臣右近大將源朝臣和子 依理等藤原朝臣

右近大將源朝臣家 左大臣中將源朝臣基 右

大臣右近大將源朝臣雅 兼兼殿上人依 實子資 五位殿上人

置河遊具以中將源朝臣玄 置右大臣府前大臣取之

泰進河游絲竹呂安 為被百歲樂更衣 事不冷人退下

次微河遊具置文卷之切席田 為志洋三長 文書張以阮

六位敷滿河田坐在文書 權大烟言及源朝臣源 右近

督及源朝臣左近中將源朝臣實 加清源殿上人六位坐

次勇置弁右大臣席者右近大將源朝臣權 大烟言及源朝臣良

源朝臣通中烟言及源朝臣隆 左近督及源朝臣左近中將

藤原朝臣實民 給卿及源朝臣左近中將源朝臣經 中官權

左大臣及源朝臣右 左近中將源朝臣家 從二位藤原朝臣家

從三位及源朝臣保 和家朝臣範 時朝臣範 宗朝臣為 家朝臣

仍能損資信實光經及源朝臣光 次右大臣源朝臣因 度次

二人右近進祥祐近進源朝臣範 時朝臣光 坐持 勿自下痛染牙

溝之次講作退下大臣依 天氣泰進賜中製後殿石

氏部心及源朝臣為 清製講師滿殿詠吟事了去退下

于時漢天雲卷葉庭月明瑤池玉階浦三秋之凍浪甚令

闕快立更之霜醉恩祥長等樂吾道再昌

秋夜侍中殿詠池月久明應 製和齋一首 并序

石長正二位藤原朝臣道家上

夜月屬於誰人遺葉宮之 明主地攬水比於何處芙蓉

池之勝形也賞世景茲令以 宸遊觀支拂雲拂水瑩

兩顆珠於百歲之風昭古昭今鑄百鍊鑄於千秋之浪

誠是月因池久朗池浮月共淨者歎方今絲竹得時

筆觀過適周宮之場 聖操未必障去象意之者此

夜也好文之主和情必慣素驚意之者 我君也小后進

純顏兮錄八雲之調深燕席兮記一日之事其辭云



千時漢天雲卷葉庭月明瑶池玉階浦三秋之凍浪甚令  
関映立更之相醉恩群片等樂吾道之再昌

秋夜侍中殿詠池月久明應 製和詩一首 并序

石上正三位藤原朝臣道家上

夜月屬於誰人遠葉宮之 明主地鏡水比於何處芙蓉  
池之勝形也賞世景茲令以 宸遊觀支拂雲拂水莹  
西顆珠於萬歲之風昭古昭今鑄百鍊銕於千秋之浪  
誠是月因池久朗池浮月共淨者歎方今絲竹得時  
業觀過適閑宮之場 聖操未必降去象勉之者此  
夜也好文之主和倍必慎素驚勉之者 我君也小后  
龍顏兮詠八雲之調深燕席兮記一日之東其詩云

秋乃代の月おろしといふ代のうらを花の如くとくえ孫

詠池月久明和詩

池水くみんぬの松乃る月より月もさとのちとあらん

秋夜陪中殿詠池月久明應 製和詩

正三位行權大納言兼右近衛守藤原朝臣通光上 卅一

正三位行權大納言藤原朝臣公経上 卅八

正三位行權大納言兼左近衛守藤原朝臣良平上 三十九

正三位行權大納言藤原朝臣通具上 四十八

正三位行權大納言藤原朝臣隆衛上 卅七

正三位行權中納言兼左近衛守藤原朝臣忠信上 三十二

正三位行權中納言藤原朝臣實氏上 卅六

正三位行權中納言藤原朝臣定家上 卅七

正三位行權中納言藤原朝臣経通上 卅二

正三位行權中納言藤原朝臣忠定上 三十一

正三位行權中納言藤原朝臣家良上 卅九

正三位行權中納言藤原朝臣家衡上 卅九

正三位行權中納言藤原朝臣基良上 卅一

正三位行權中納言藤原朝臣家隆上 卅十







池水... 正五位下身中務権左衛門督信實上

可... 百代... 権左衛門督信實上

百代... 権左衛門督信實上

権左衛門督信實上

権左衛門督信實上

権左衛門督信實上

権左衛門督信實上

定補 五十八

有雅 四十七

公頼 四十六

家嗣 三十一

資雅 二十

中殿神會圖 信實朝畫

右者信實... 傳... 竊... 西... 主... 藤...

本圖信實朝... 九條...

其後... 九條...

友成信實... 右...

中殿... 信實... 自己... 像... 西...





73  
8645  
401







2515  
401

中殿御會之圖

中殿御會圖

清涼殿





29  
8615  
401

二命圖

光緒

大人

